

東京都市計画道路幹線街路事業放射第16号線(清砂大橋)

きよすな

受賞機関 東京都建設局道路建設部
東京都建設局第五建設事務所

事業の概要・特徴

東京都市計画道路幹線街路事業放射第16号線は、東京都心部と区部東部を結ぶ幹線街路として整備を進めており、清砂大橋は同路線が荒川及び中川を渡河する部分に架る長さ1,317mの橋梁である。

本事業の特徴としてまず挙げられる点は、隣接する営団地下鉄東西線荒川橋梁と橋梁の中心間隔で約22m、橋と橋の間隔は最小部分で約4.5mと非常に近接していることである。

そのため基礎形式は、東西線橋脚への影響、経済性等を考慮して鋼管矢板井筒基礎とし、施工にあたっては、東西線の橋脚の変位状況を計測し、変位の管理値として30mmを採用した。

施工中、一部設計時に想定していない変位等も計測されたが、リアルタイムの計測を行った施工管理により、営業線である東西線の運行に支障をきたすことなく、事業を終了することができた。

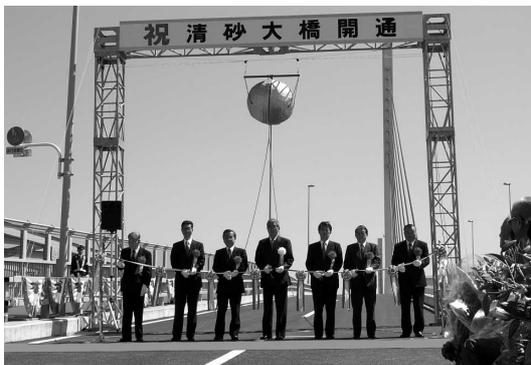
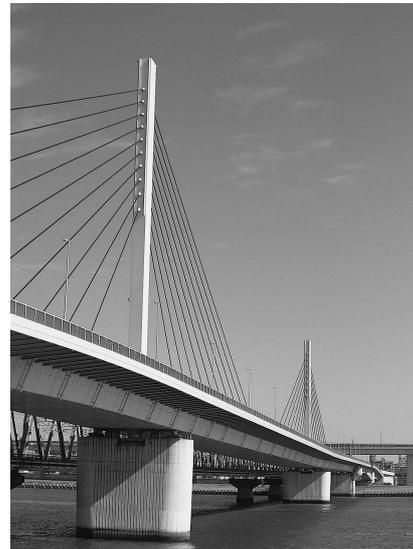
また流水に対し、東西線の橋脚と相互に影響しあい、河川に対する影響が非常に複雑になるため、洗掘等の影響を把握する目的で水理実験を行い、洗掘防止策として250mm程度の捨石を橋脚周辺に設置することとした。

事業の効果及び成果

本橋梁は、平成16年3月28日に供用を開始したが、

その前日には東京都知事、江東、江戸川両区長出席のもと、開通式典が行われ、その席には観客が約5,000名集まり、非常に盛大なものになったことは、この橋の開通を両区民の方々がいかに期待していたかを如実に表すものとなった。

本橋梁が整備されたことにより、環七通りから明治通りまでの区間が繋がり、骨格道路ネットワークが強化され、周辺の交通渋滞の緩和が図られるとともに、区画整理事業等により、新しい街づくりが進められている、江東区と江戸川区の連絡が緊密になり、地域の暮らしに活力を与え、地域の健全な発展に大きく寄与することになった。



開通式典

清砂大橋荒川横断面(後方は地下鉄東西線)